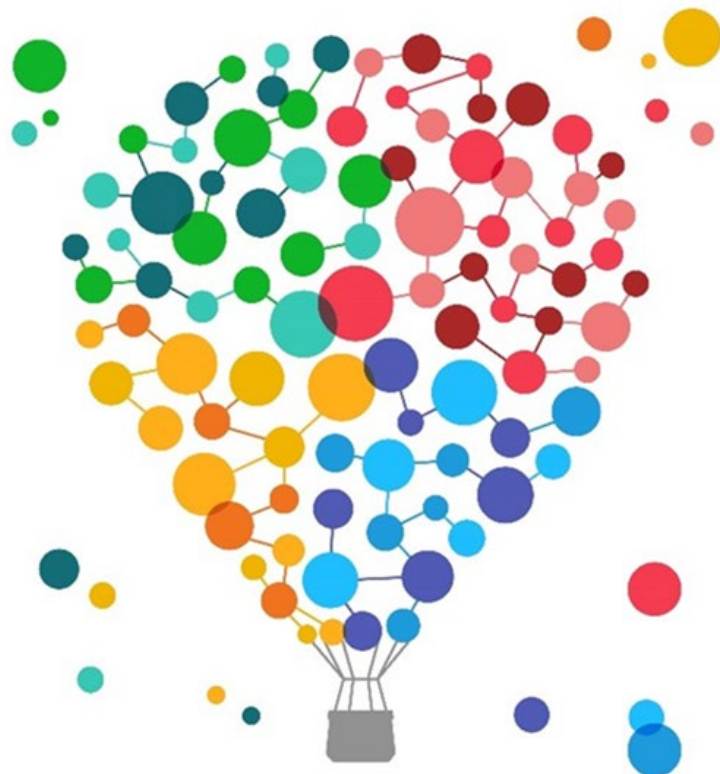




150 Years of Innovation



日本証券アナリスト協会 大阪会場 個人投資家向けIRセミナー

株式会社島津製作所のご紹介

(東証プライム市場：証券コード7701)

コーポレート・コミュニケーション部IRグループ | 2025年9月17日

① 会社概要

商 号 株式会社 島津製作所 Shimadzu Corporation

創 業 明治8（1875）年3月

資 本 金 約266億円

従 業 員 連結14,481名
(2025年3月31日現在)



① 会社概要 島津のDNA

150
YEARS
ANNIVERSARY



初代 島津源蔵

【創業当時のカタログ巻末の言葉】

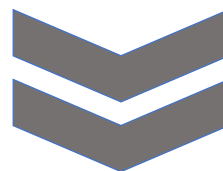
「御好次第何品ニテモ製造仕候也」
ご希望に応じて
どんな品物でも製造いたします



二代 島津源蔵

【二代 島津源蔵の言葉】

学問を教えられたら
その応用を考えなくてはならない、
死に学問ではだめだ



科学技術で社会に貢献する

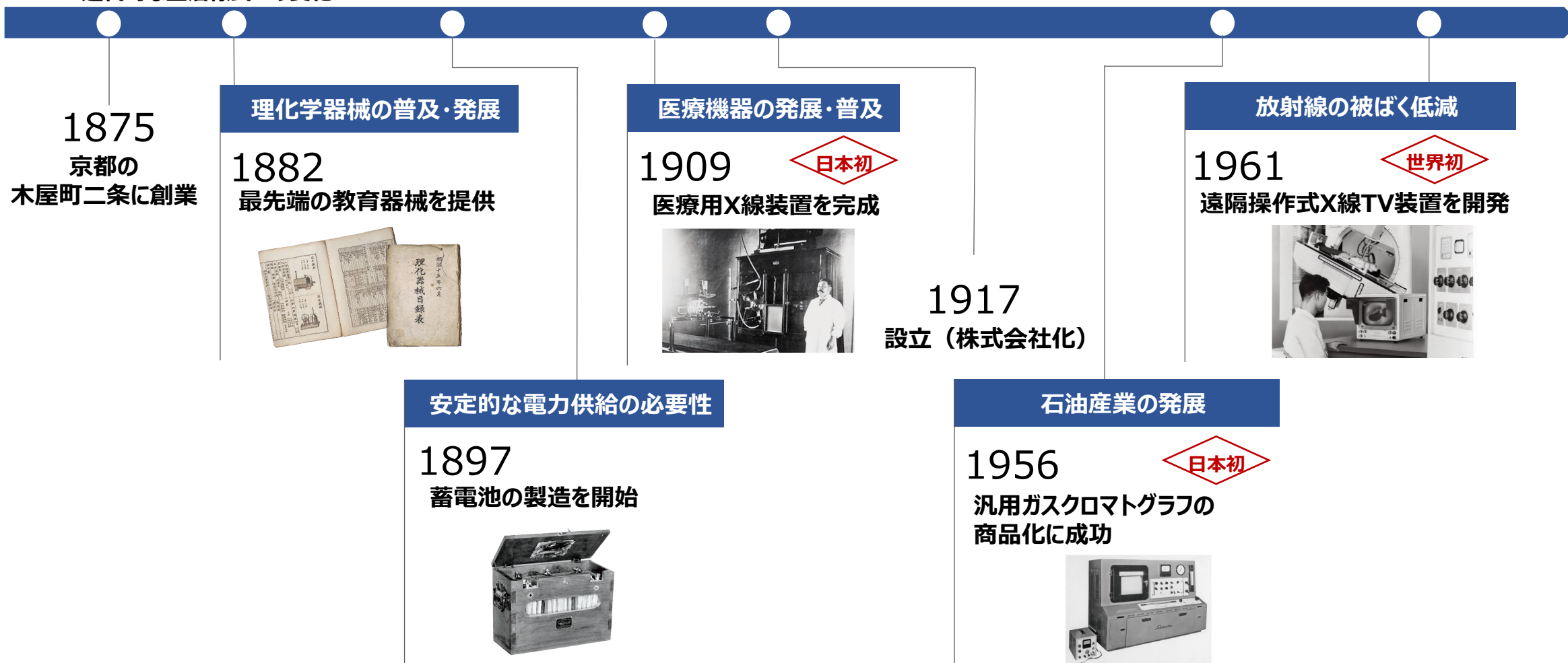
社会貢献の歴史（１）

文明開化

- ▶ 海外の近代科学の導入
- ▶ 近代的な生活様式への変化

戦後からの復興

- ▶ 医療基盤の整備と量的拡充
- ▶ 石油・化学産業の発展



社会貢献の歴史（２）

高度経済成長

- ▶ 自動車産業の発展
- ▶ 健康保険制度の充実による医薬品産業の発展

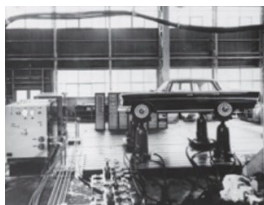
QOLの向上

- ▶ 健康寿命を延ばす科学技術の振興

自動車の安全性向上

1967

疲労試験機1号機を製造
自動車メーカーに納入



臨床検査医学の進展

2010

国産初ハイエンドの
液体クロマトグラフ
質量分析システムを開発

日本初



乳がん診療・認知症研究を 支える

2021

頭部と乳房の検査に特化した
TOF-PET装置を開発

世界初



医薬品の安全性・有効性

1978

モジュラー構造の
液体クロマトグラフ完成

日本初



COVID-19の感染拡大

2020

全自動リアルタイム
PCR検査装置 及び
新型コロナウイルス
検出試薬キットを開発



食と健康のイノベーション創出

2023

業界最小クラスの
ガスクロマトグラフ
質量分析システム
を開発

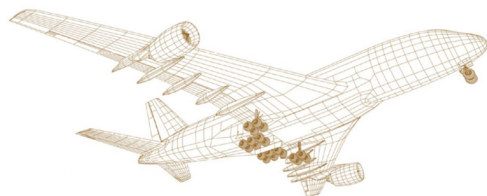


現在の事業セグメント

航空機器事業

7%

最先端の搭載機器を提供し、「安全・快適・負担軽減」に役立っています。



計測機器事業

65%

高性能な分析機器を提供し、医薬・食品・素材をはじめ様々な分野で研究や技術開発、品質管理を支援しています。



高速液体クロマトグラフ質量分析システム

産業機器事業

13%

高性能なキーコンポーネントで最先端のものづくりを支援し、産業の発展に役立っています。



ターボ分子ポンプ

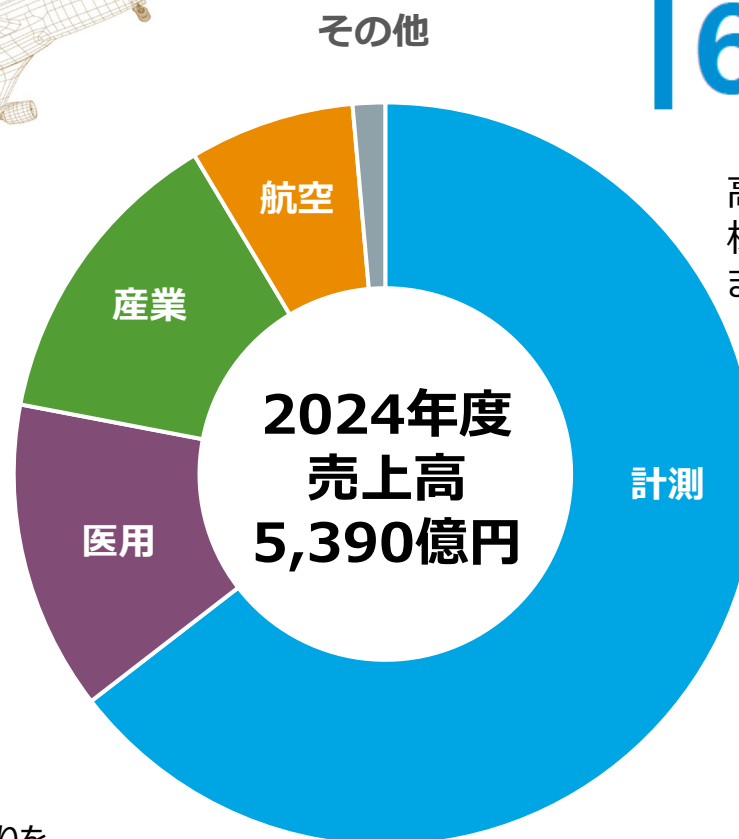
医用機器事業

14%

的確な診断を支援する医用機器を提供し、人の健康の維持・向上に貢献しています。



血管撮影システム



① 会社概要 海外拠点

150
YEARS
ANNIVERSARY

販売・サービス体制

- 地域統括
- 販売・サービス



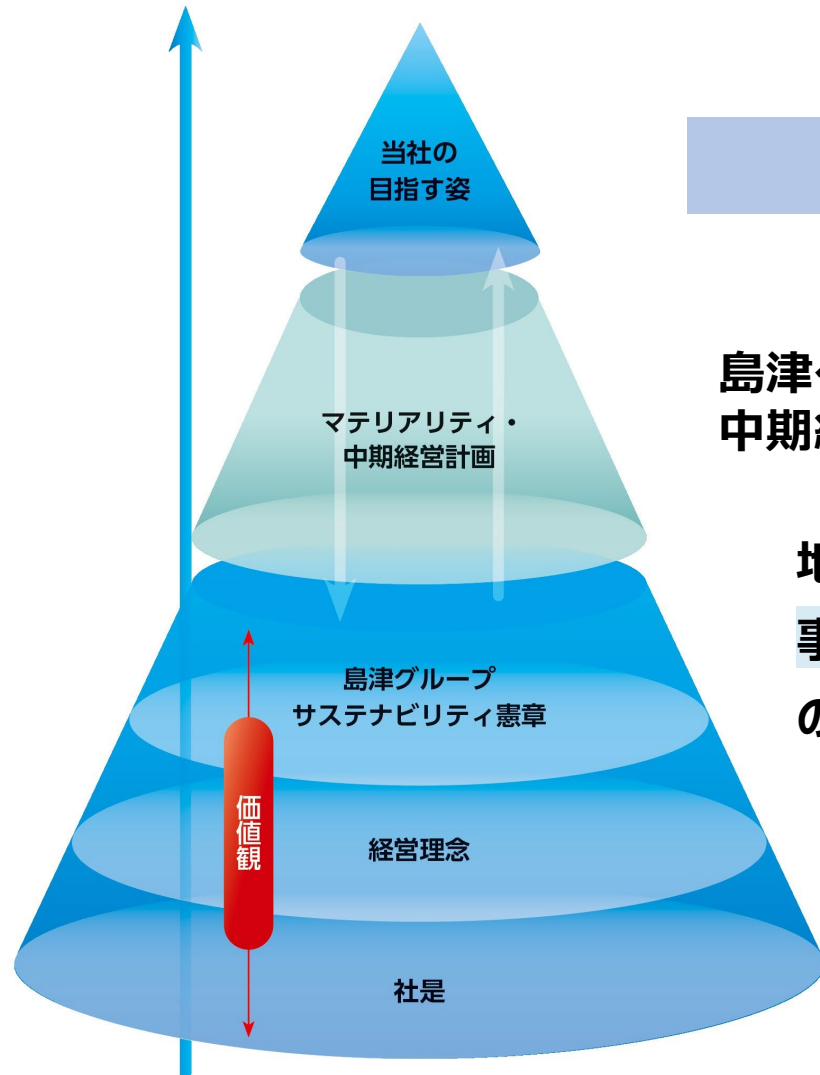
製造・研究開発体制

- アプリケーション開発
- 製造
- 研究・開発



② 島津のサステナビリティ経営

② サステナビリティ経営 価値観と目指す姿



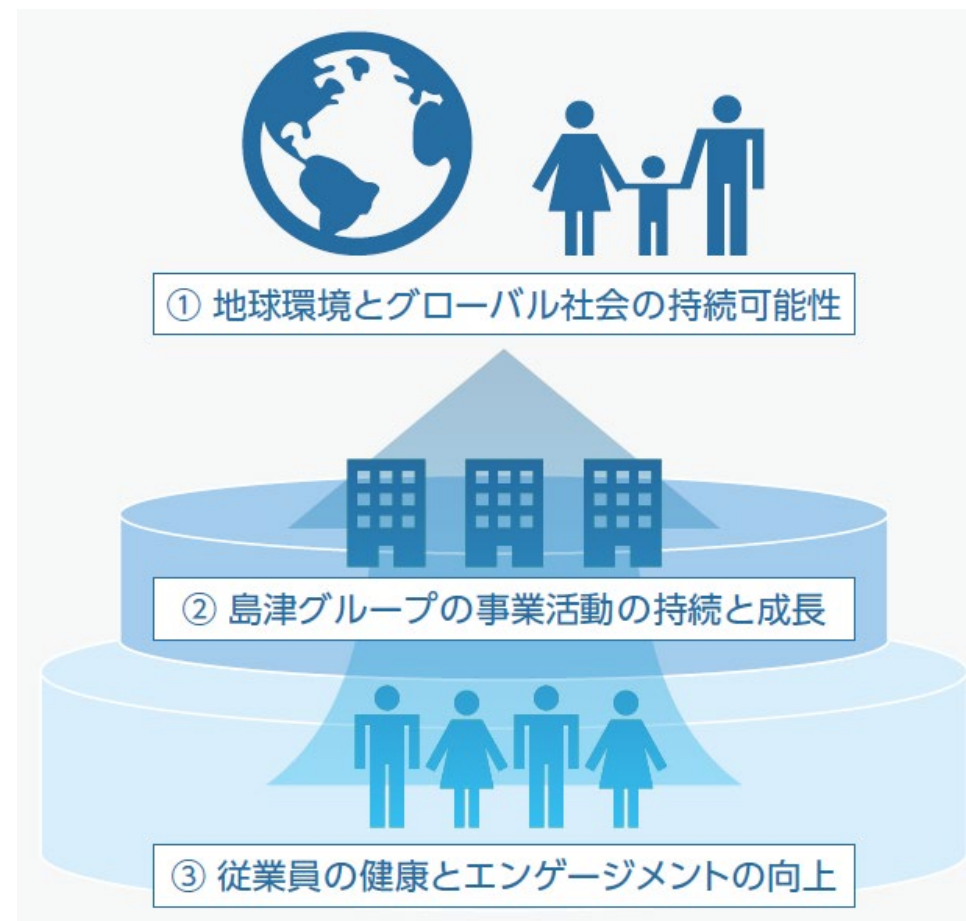
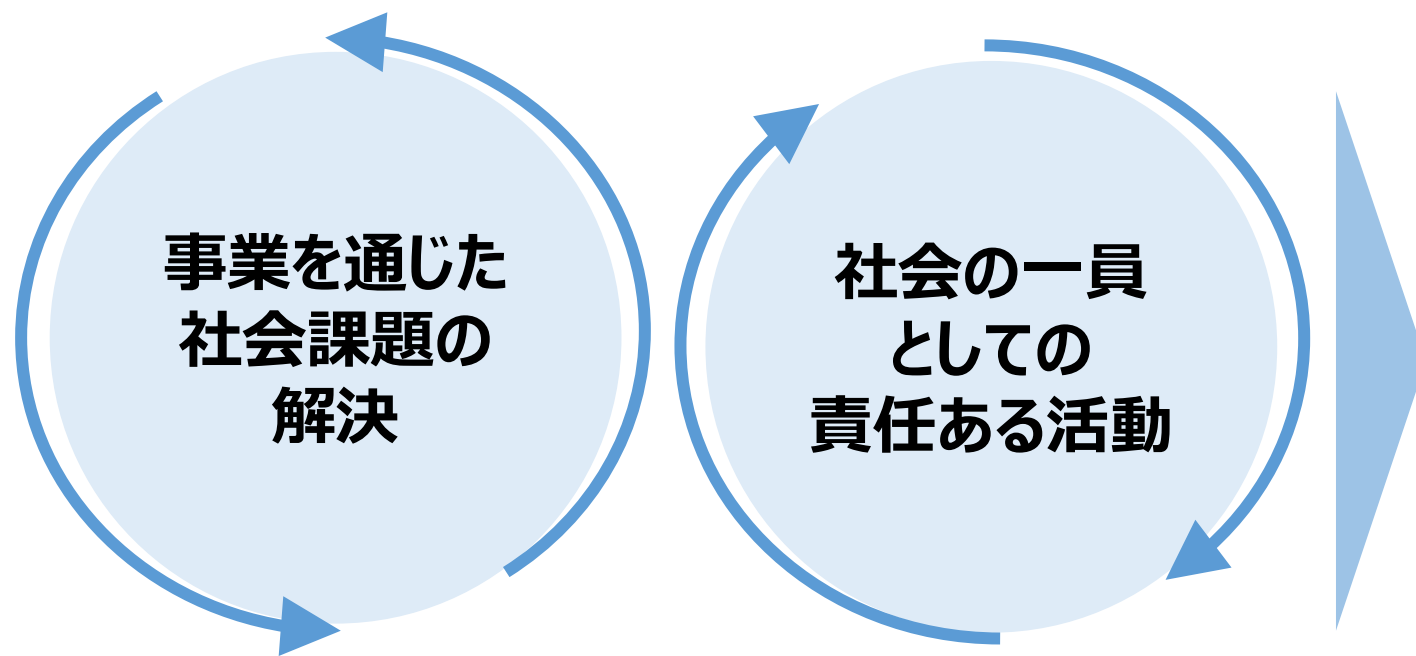
プラネタリーヘルス（人と地球の健康）の追求

島津グループサステナビリティ憲章に基づき、
中期経営計画を通じて重要な経営課題（マテリアリティ）の解決に取り組む

地球・社会・人との調和を図りながら、
事業を通じた社会課題の解決 と 社会の一員としての責任ある活動
の両輪で企業活動を行い、明るい未来を創造します

「人と地球の健康」への願いを実現する

科学技術で社会に貢献する



重要な経営課題（マテリアリティ）

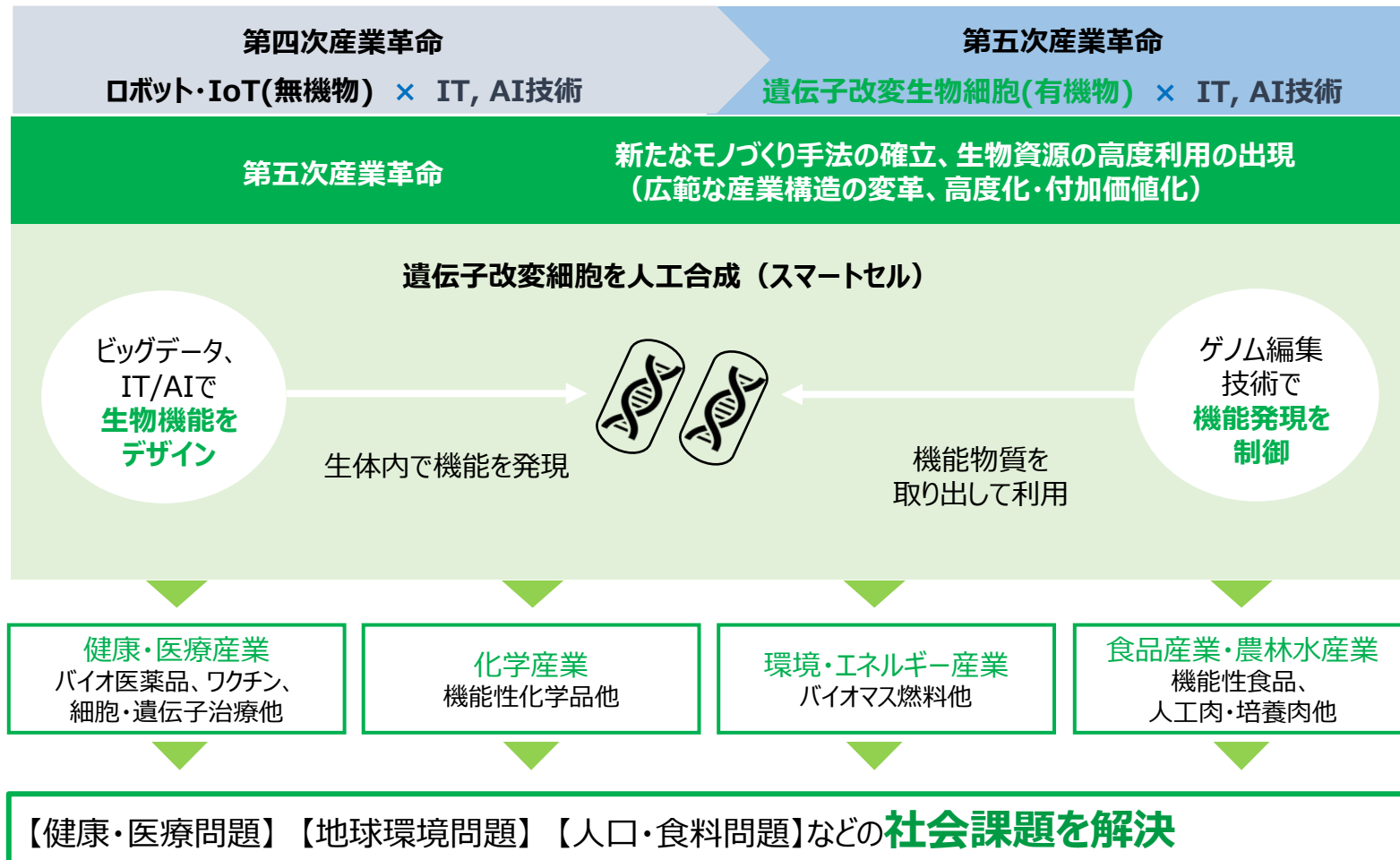
	事業を通じた社会課題の解決		基盤テーマ（経営、技術関連）		
E 環境		②-1 地球の健康への貢献			
		②-2 人の命と健康への貢献			
S 社会	  	②-3 産業の発展と安心・安全な社会への貢献			
		②-4 科学技術の進歩・高度化			
				②-5 開発・製造能力の向上	
				②-6 人財の育成	
				②-7 ガバナンスの強化	
G ガバナンス					

バイオ技術を用いた化学製品の生産～バイオものづくり～

- 市場規模（2030年）：約200兆円
- バイオ、製薬、新素材開発などに自律型実験システムを開発し、社会実装へ



自律型実験システム（Autonomous Lab）



光免疫療法の社会実装を目指す

- がん細胞だけを選択的に殺傷できる副作用の少ない光免疫療法
- 条件付きで「切除不能な局所進行又は局所再発の頭頸部癌」への治療が日本で承認されている

近赤外光による化学反応の進行状態を可視化する近赤外カメラシステム

治療中の近赤外光による化学反応を画像化し、治療効果や治療し残しなどを評価・記録します。



尿や血液の分析で治療効果を確認する質量分析システム

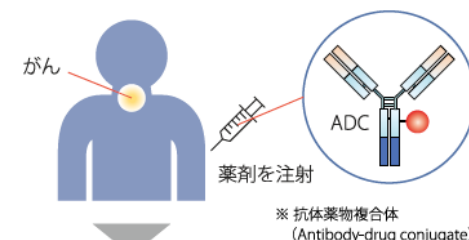
メタボロミクス解析による治療効果の評価方法を探索しています。



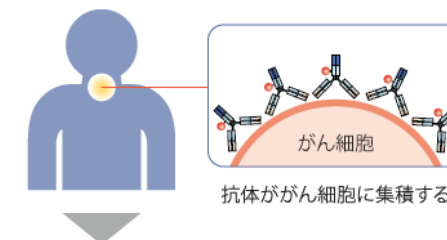
2003年から米国国立衛生研究所の小林久隆主任研究員（関西医科大学附属光免疫医学研究所所長）と共同で光免疫療法の効果測定に関する研究などに取り組む

光免疫療法のメカニズム

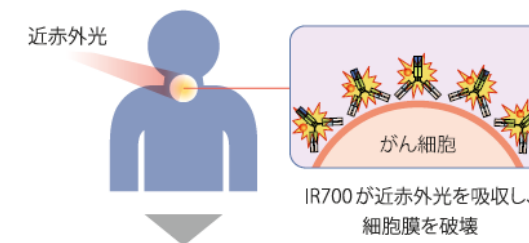
- ① 抗体および感光性がある化学物質（IR700）を結合させた治療薬を投与



- ② 治療薬ががん細胞に特異的に結合



- ③ 近赤外光を照射すると化学物質が活性化しがん細胞を破壊



- ④ 化学物質からの蛍光が減衰する

産業の発展・安心安全な社会の実現への貢献

ターボ分子ポンプ（＝高性能真空ポンプ）

- 主に半導体製造装置に使用
- 半導体需要の拡大にともない売上高増加
- 世界シェアトップ（自社推定）



ターボ分子ポンプ



ロータ翼
(高速回転し真空状態を作り出す)

航空機用装備品

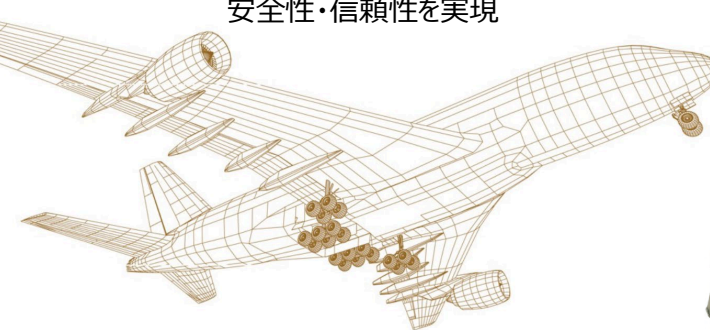
- 売上高比率は防衛向け8割、民間航空機向け2割
- 防衛分野：防衛力強化方針により需要拡大中
- 民航分野：コロナ禍から回復した航空需要に対応



フライトコントロールシステム
航空機の揚力や機体姿勢を制御。高い技術力で
安全性・信頼性を実現



空調システム
機内の温度と圧力を調節。機内環境を
総合的に最適化し、快適な環境を提供

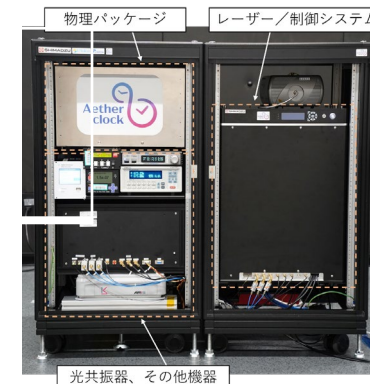


ディスプレイシステム
高度な電子技術、光学技術の融合により、
パイロットの負荷を軽減



ストロンチウム光格子時計が変える世界

- ❑ 従来のセシウム原子時計に対して100倍以上の精度向上を実現した世界初の製品
ストロンチウム光格子時計「Aether clock OC 020」（100億年に1秒の誤差）
- ❑ 高精度な時間・周波数計測のリファレンスとして世界を変える



用途

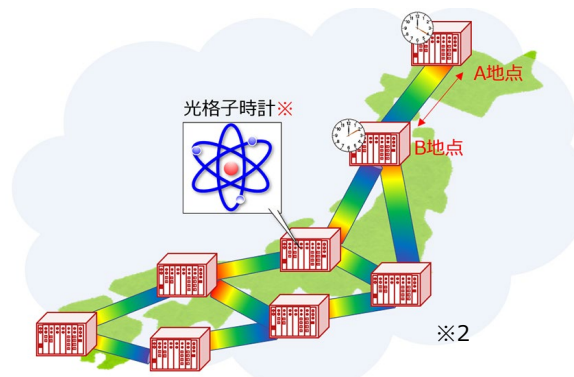
- 時間標準用途（2030年に秒の再定義検討）
時刻維持のための光周波数基準として
セシウム原子時計を置き換え



NICTの日本標準時システム（セシウム原子時計）

※1: <https://rri.nict.go.jp/labo/sts.html>

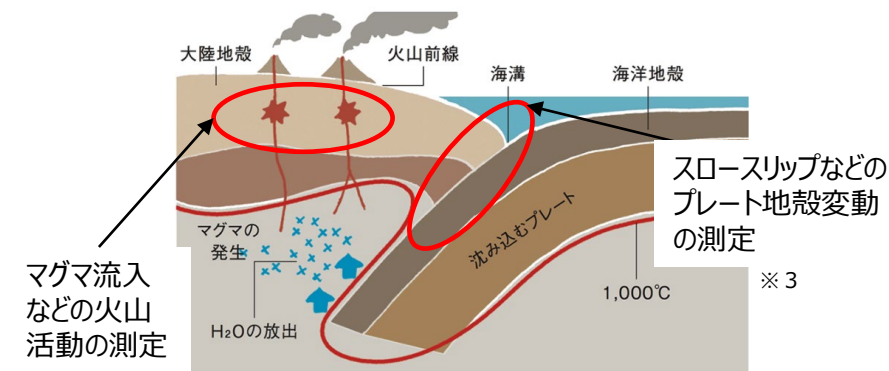
- 通信用途
次世代通信のための基準クロック



時間同期がGNSS基準（ 10^{-14} 程度）から光格子時計基準（ 10^{-18} ）になれば、調整時間が短縮

※2: https://www.rd.ntt/communication_device/0004.html

- 測位・測地、防災用途：ジオポテンシャル測定
重力による時間遅れ効果を利用



※3: <https://funq.jp/peaks/article/612172/>

②-4 科学技術の進歩・高度化 国際標準化戦略、規制対応

Lv0

既存の規格・
規制への対応

Lv1

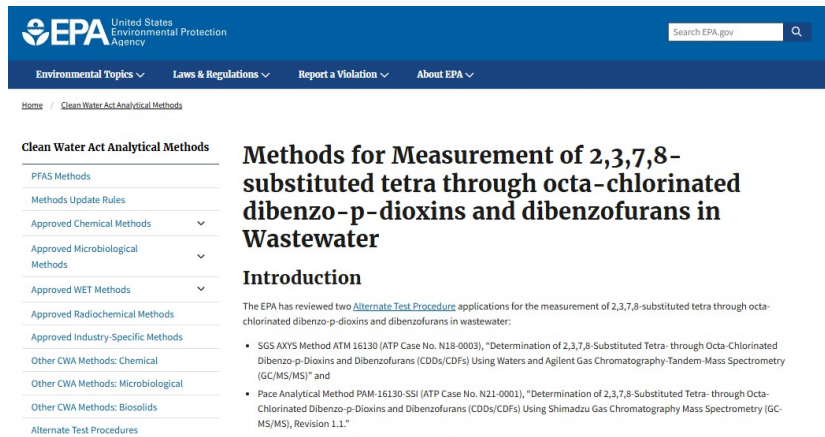
当社主導の
規格策定

Lv2

戦略的
標準化活動

Lv3

総合的な
ビジネス戦略



Lv1の事例

- ❑ 米国環境保護庁（EPA）に汎用装置での水中ダイオキシン類の分析法を提案し、2024年度に公定法として承認（PAM-16130-SSI）された
- ❑ 農水省の公認を得て、緑茶中のカテキン等約10成分の一斉分析法の日本農林規格（JAS）化を推進中

Lv2の事例

- ❑ 環境省ガイドラインに沿ったマイクロプラスチックの分析法・前処理装置のISO規格化を推進中
海外の研究機関との共同研究に着手

②-5 開発・製造能力の向上 研究開発体制



北米R&Dセンター
(2024年4月開所)

アプリケーション 技術開発

製品・サービスの
提供



Shimadzu Tokyo Innovation Plaza
(2023年1月開所)



イノベーションセンター



アプリケーション
開発センター

顧客のニーズ・情報の
提供

基盤技術研究



ヘルスケアR&Dセンター

製品・ サービス開発



英国
Kratos



中国
開発センター



田中耕一記念
質量分析研究所



研究所

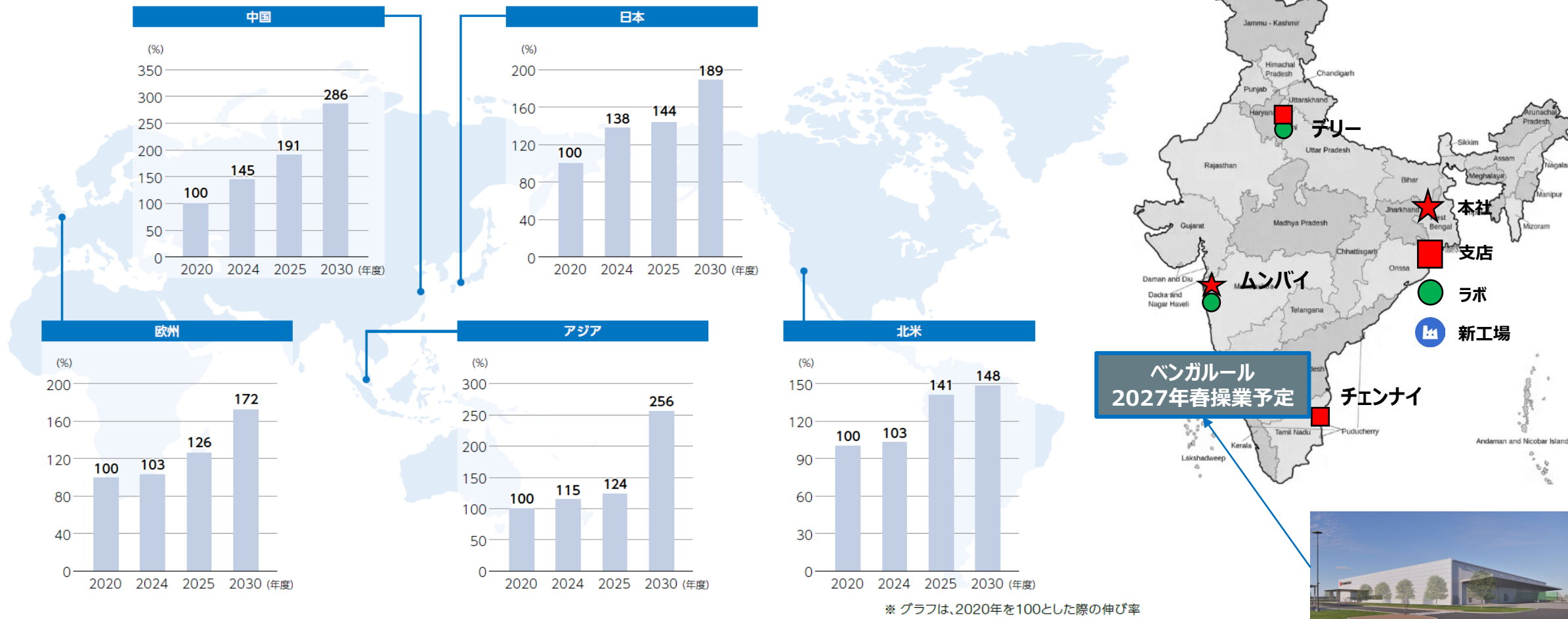
基盤技術の提供



SHIMADZU みらい共創ラボ

②-5 開発・製造能力の向上 グローバル製造の拡大

- インドに新生産拠点を設立
- 需要増および国産品優遇策に対応するため、2027年春に操業開始を目指す



将来に向けた人財育成 ～高度専門人財の育成～

- グローバルな事業成長に資する博士号取得と博士人財の採用・育成
 - REACHプロジェクト/社会人博士育成支援制度（SPARK）などにより博士号取得を促進
 - 持続的な成長に必要な、高度な技術的専門性や経営管理スキル・能力をもつ専門人財の獲得

社内制度：共同研究を通じた博士号取得支援

創業以来、大学、公的研究所などと共同研究を積極的に推進

- 2003年から資格取得奨励一時金制度を開始

博士号取得者 148名
うち、入社後取得者 45名

- 2024年に博士号取得のための学費補助制度 SPARKを新設

2024年4月から2名が制度活用

SPARK :
Shimadzu Ph.D. scholarship for Professional
Advancement through Research and Knowledge

大学との人財育成

【ストレート】

修士卒を社員として採用後、博士後期課程で共同研究に参加させ博士号取得

大阪大学
ストレート・キャリア

【キャリア】

若手研究者・技術者などの社員を事業戦略上の重要研究領域の博士課程に派遣
復社後は高度な研究能力、人的ネットワークを有する人財として活躍

長崎大学
ストレート

早稲田大学
ストレート

REACH :

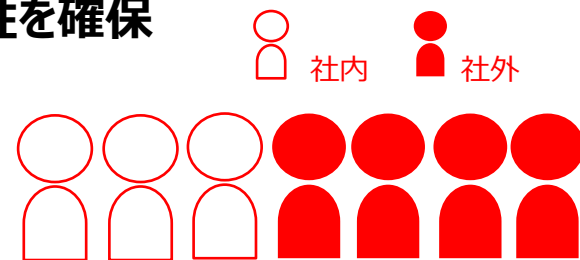
Recurrent & Re-skilling through Academia and Industry Collaboration for Higher Education

②-7 ガバナンスの強化 コーポレートガバナンス

- 多様性のある構成
- 経営の透明性と客観性を確保

取締役会の構成

全取締役の**過半数**が
社外取締役

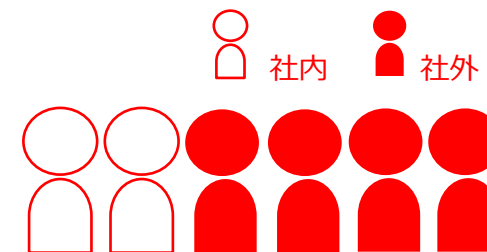


※社外取締役4名のうち、2名が女性取締役

指名・報酬委員会

委員長は社外取締役

委員の**2/3**が社外取締役



※委員6名中4名が社外取締役

- **みなし保有も含む上場株式保有規模は20銘柄、40,360百万円** **連結総資産の6.0%** **連結純資産の8.1%**

銘柄数

(銘柄)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
非上場株式	30	30	30	30	28	30
非上場株式以外の株式	36	30	24	22	22	20

貸借対照表計上額

(百万円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
非上場株式	525	519	612	1,530	1,381	2,467
非上場株式以外の株式	10,418	11,907	11,405	10,426	13,054	9,261

2025年3月31日現在において、上記の他に、みなし保有株式として8銘柄、31,098百万円保有しています。

(2025年3月31日現在)

③ 業績&株価

2024年度通期決算 業績サマリー

	単位：億円	通期		前期比		
		FY2023	FY2024	増減額	増減率	
業績	売上高	5,119	5,390	+272	+5%	(除中国：+9%)
	営業利益	728	717	▲10	▲1%	
	営業利益率	14.2%	13.3%	▲0.9pt		
	経常利益	769	720	▲49	▲6%	為替影響による 営業外損益 ▲38億円
	親会社株主に帰属する当期純利益	570	538	▲33	▲6%	
	ROE	12.5%	10.9%	▲1.6pt		
	ROIC	11.0%	10.0%	▲1.0pt		
為替	平均為替レート：米ドル(円)	144.66	152.63	+7.97	+6%	
	ユーロ(円)	156.85	163.78	+6.93	+4%	
	研究開発費	215	289	+74		
	設備投資額	225	229	+5		
	減価償却費	186	199	+13		

為替影響額

(売上高、営業利益は平均為替レートで、営業外損益は期末レートで計上)

売上高： +146億円 営業利益： +58億円

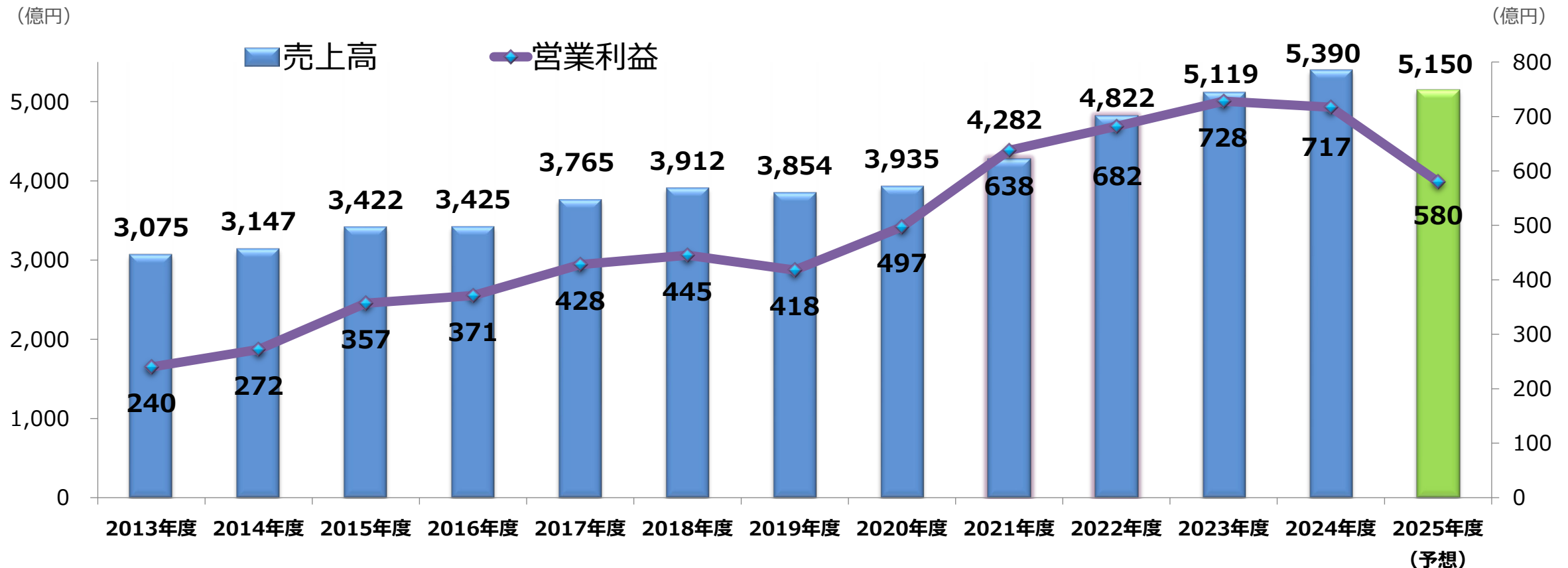
経常利益・純利益：

営業外損益 ▲38億円

FY2023：為替差益+24億円（期末レート：FY22期末・1ドル134円→FY23期末・151円）
FY2024：為替差損▲15億円（期末レート：FY23期末・1ドル151円→FY24期末・150円）

③ 業績&株価 業績推移

- 10年間の年平均成長率（2015～2024年度のCAGR） 売上高：5% 営業利益：8%
- 2025年度：円高影響と米国の関税影響を織り込むワーストケースでの業績予想（関税影響を精査中）
【主な影響】①世界経済悪化による売り上げ減少（間接的） ②米国輸入部品のコスト増（直接的）



③ 業績&株価 株主還元



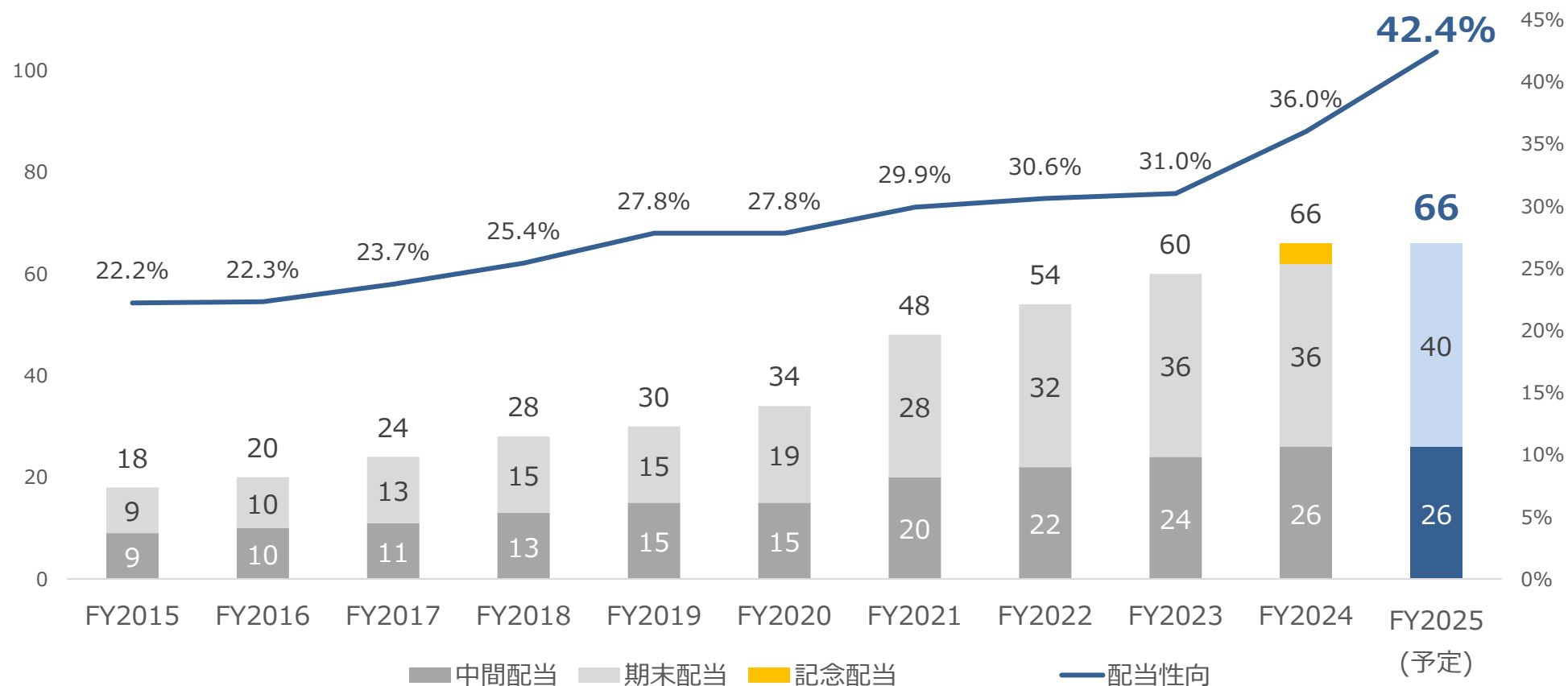
配当金

11期連続増配



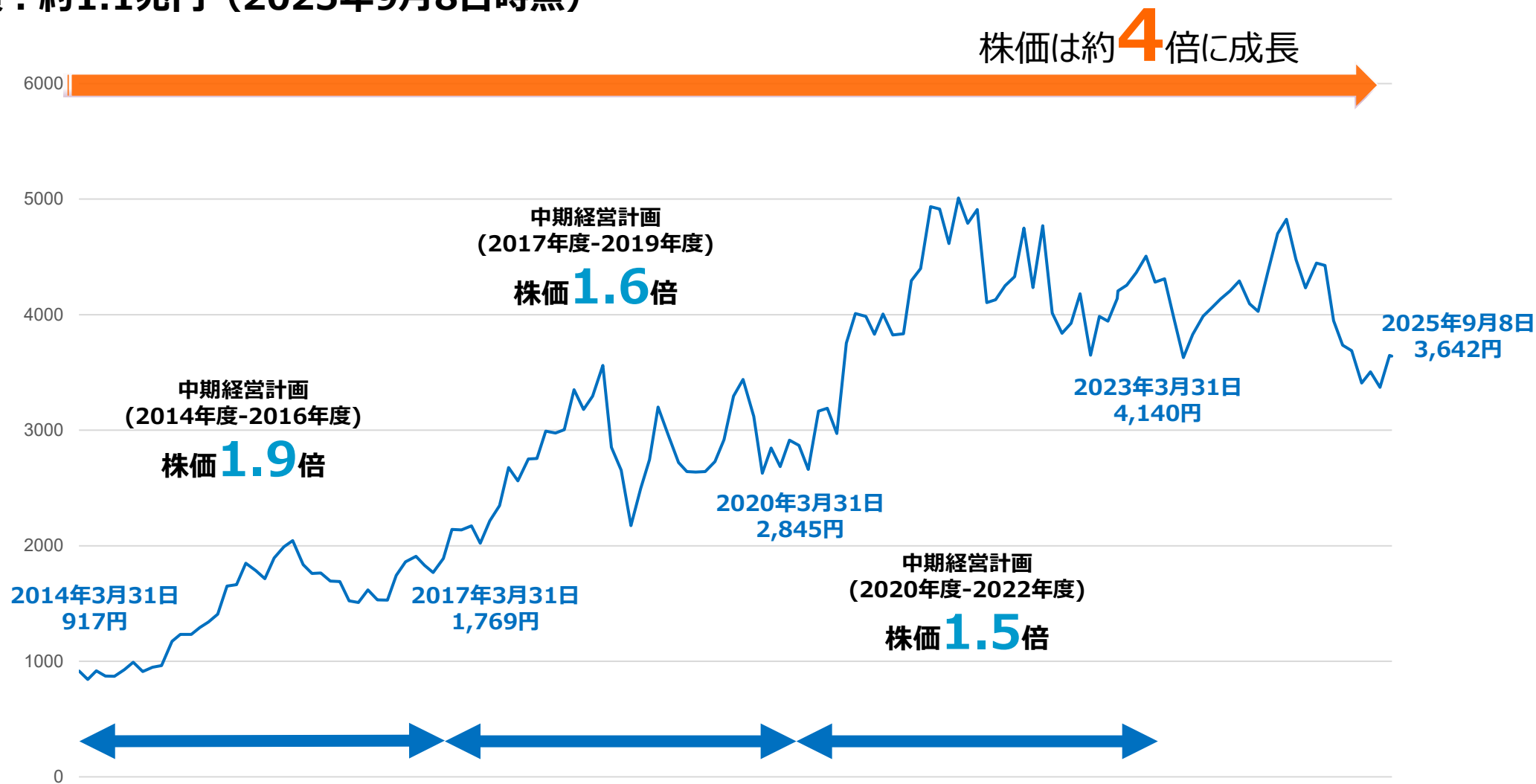
配当性向

2025年度は**42.4%**を予定



③ 業績&株価 株価推移

□ 時価総額：約1.1兆円（2025年9月8日時点）



④ 最後に

大阪・関西万博に “培養肉” を展示

□ SDGs目標 2（飢餓をゼロに）の実現に「未来の食」の一つとして “培養肉” の実用化を目指す

出展場所：大阪ヘルスケアパビリオンに常設

出展者：培養肉未来創造コンソーシアム

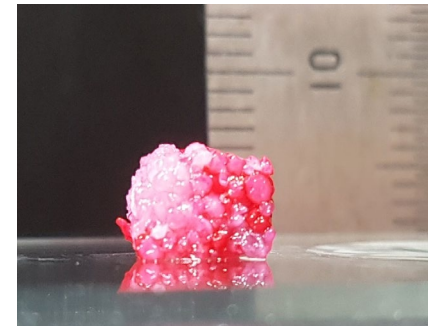
- 大阪大学大学院工学研究科、(株)島津製作所、伊藤ハム米久HD (株)、TOPPAN HD(株)、(株)シグマクシス、ZACROS(株)の6社が運営パートナーとして参画
- 設立目的は、3Dバイオプリントによる培養肉製造技術の社会実装

島津の役割：

- 3Dバイオプリント技術の自動化
- 培養肉の食味や香りなどの分析・評価、及び 培養に関わる分析などの周辺技術開発
- 喫食を可能とする培地の開発
- 培養プロセスのモニタリングとフィードバック



培養肉未来創造
コンソーシアム
Consortium for Future Innovation by Cultured Meat



培養肉（大阪大学提供）



「培養肉未来創造コンソーシアム」
展示ブース

④ 最後に IRサイトのご紹介

当社ウェブサイトにて統合報告書、決算資料や個人投資家向けイベントなど様々な情報を掲載しています。
ぜひご活用ください。

統合報告書

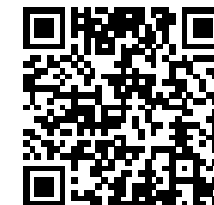


投資家向け情報



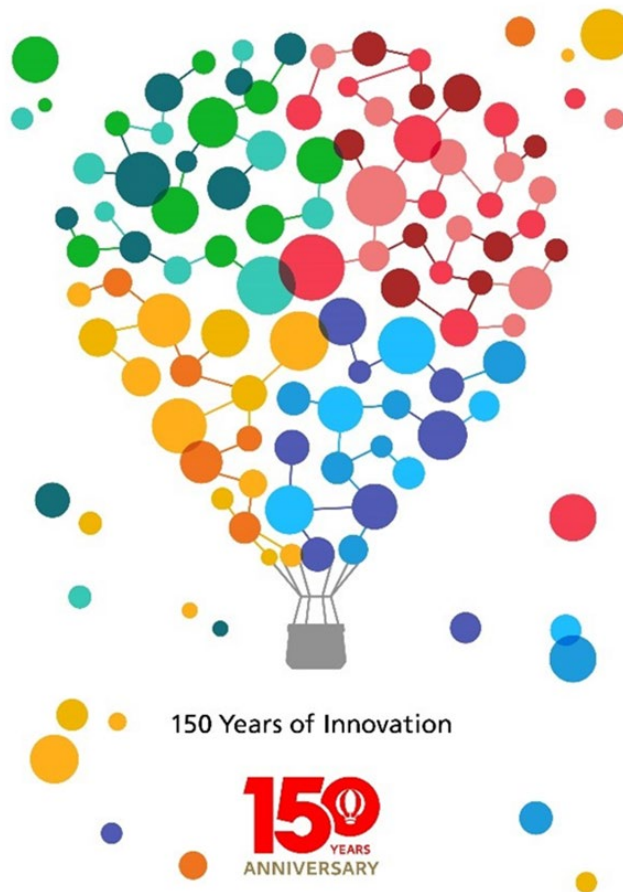
URL : <https://www.shimadzu.co.jp/ir/index.html>

🔍 島津 IR





1877年12月
人に乗せた軽気球の飛揚に成功



島津製作所は、1875年に創業してから
2025年3月31日で**満150歳**になりました。
今後も、ステークホルダーの要望に応える
“共有価値の創造”を通じて
プラネタリーヘルスを追求
してまいります。



ご清聴 ありがとうございました

お問い合わせ先：

株式会社 島津製作所

コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ

電話：075-823-1673

E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

補足資料

第1四半期 増収増益

売上高・営業利益とも前年および当社想定を上回って増加

- ・【売上高】 **1,184億円（前年同期比+1%）**：5期連続で1Q過去最高を更新
- ・【営業利益】 **122億円（前年同期比+11%）**

セグメント別

- ・ 計測：増収増益 / 売上高は5期連続で1Q過去最高を更新 **19%増益**
- ・ 医用：減収減益 / 受注残が少なかったことから厳しく推移
- ・ 産業：減収利益横ばい/ 為替影響を除けば増収増益
- ・ 航空：増収増益 / 売上高・営業利益とも1Q過去最高を更新

通期目標

- ・ **8月以降の関税率改定による世界経済および当社事業への影響が不透明であり
現時点では通期目標は売上高・営業利益とも据え置く**

2026年3月期第1四半期 連結 / 業績

	単位：億円	第1四半期(4月-6月)		前年同期比	
		FY2024	FY2025	増減額	増減率
業績	売上高	1,169	1,184	+14	+1%
	営業利益	110	122	+12	+11%
	営業利益率	9.4%	10.3%	+0.9pt	
	経常利益	137	113	▲24	▲17%
	親会社株主に帰属する当期純利益	100	79	▲21	▲21%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	155.9	144.6	▲11.3	▲7%
	ユーロ(円)	167.9	163.8	▲4.1	▲2%
	研究開発費	68	73	+4	
	設備投資額	42	54	+12	
	減価償却費	48	50	+2	

為替影響額

売上高 : ▲50億円

営業利益 : ▲8億円

為替差損益 : ▲36億円

(売上高、営業利益は平均為替レートで、
為替差損益は期末レートで計上)

FY2024 1Q : 為替差益 + 24億円
期末レート 3月末・1ドル151円→6月末・161円

FY2025 1Q : 為替差損 ▲13億円
期末レート 3月末・1ドル150円→6月末・145円

2026年3月期第1四半期 セグメント別損益



■ 計測：増収増益 売上高 過去最高
■ 医用：減収減益

■ 産業：減収利益横ばい 除為替 増収増益
■ 航空：増収増益 売上高・営業利益 過去最高

単位 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2024	FY2025	前年同期比		FY2024	FY2025	前年同期比		FY2024	FY2025	前年同期比 増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	738	758	+20	+3%	73	87	+14	+19%	9.9%	11.5%	+1.6pt
医用機器	155	137	▲18	▲11%	1	▲8	▲8	-	0.5%	-5.5%	▲6.0pt
産業機器	175	168	▲7	▲4%	27	26	▲0	▲0%	15.2%	15.7%	+0.6pt
航空機器	87	99	+12	+14%	13	21	+7	+55%	15.2%	20.7%	+5.5pt
その他	15	22	+7	+48%	▲2	2	+4	-	▲8.6%	8.8%	+17.4pt
調整額			-	-	▲3	▲7	-	-	-	-	-
合計	1,169	1,184	+14	+1%	110	122	+12	+11%	9.4%	10.3%	+0.9pt

アンケートのお願い

本日はIRセミナーへご参加いただき有難うございました。

皆様に本日のIRセミナーに関する率直なご意見、ご感想をお伺いしたく、アンケートのご協力をお願いいたします。

※アンケートは下記QRコード又はURLよりアクセスしていただき、ご回答下さいますようお願い申し上げます。
※回答後に送信ボタンを押していただくことで回答完了となります。



【URL】 <https://forms.office.com/r/akpK6wktYX>

お客様の個人情報について

ご記入いただきましたお客様の個人情報は、当社の個人投資家向けセミナーに関するお客様のご意見の把握、および当社個人投資家向けセミナーの円滑な運営・サービスの向上を目的として利用し、その他の目的には利用いたしません。

当社は、個人情報の取扱いに関する管理規定を設け、それを組織的に運営することで、ご記入いただきましたお客様の個人情報の漏えい、滅失又は毀損の防止などのセキュリティを確保いたします。

当社は次の何れかに該当する場合を除き個人情報を第三者に開示いたしません。

- ・ご本人の同意がある場合
- ・外部の業者へ、利用目的の達成に必要な範囲において個人情報の取扱いの全部又は一部を委託する場合
- ・裁判所・法令等により要求され又は許容されている場合
- ・個人の識別ができない状態で開示する場合

上記以外の個人情報の取扱いについては、当社のプライバシーポリシーに基づき、適切に管理いたします。

※当社のプライバシーポリシーにつきましては、当社ホームページ
(<https://www.shimadzu.co.jp/attention/privacy.html>)
をご覧ください。